

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コンピュータ実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	合田 千佳

授業の概要

・情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、表計算ソフト(Excel)のデータ集計機能、グラフ作成機能、データベース機能を利用し、わかりやすい集計資料などの作成能力を養う

【実務経験】合田 千佳

- ・ユーザ教育・社内教育担当として2年の実務経験
これまでのユーザ向けや社内向け講座の企画立案から準備・実施・フォローの経験を活かし学生の技術力を高める授業を展開する
- ・専門学校講師として21年の実務経験
これまでの様々なIT資格やビジネス資格取得教育担当や職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する職業教育担当経験を活かし学生の技術力を高める授業を展開する
- ・営業事務として2年の実務経験
これまでのMicrosoft Officeを用いたデータ分析資料や財務資料、プレゼンテーション資料、ビジネス文書作成などの経験を活かし学生の技術力を高める授業を展開する

授業終了時の到達目標

- ・Excel表計算処理技能認定試験3級(サーティファイ) 合格
- ・Excelを用いて簡単な集計表やデータベース、グラフを作成することができる

実務経験有無	実務経験内容
有	<p>【実務経験】合田 千佳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザ教育・社内教育担当として2年の実務経験 これまでのユーザ向けや社内向け講座の企画立案から準備・実施・フォローの経験を活かし学生の技術力を高める授業を展開する ・専門学校講師として21年の実務経験 これまでの様々なIT資格やビジネス資格取得教育担当や職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する職業教育担当経験を活かし学生の技術力を高める授業を展開する ・営業事務として2年の実務経験 これまでのMicrosoft Officeを用いたデータ分析資料や財務資料、プレゼンテーション資料、ビジネス文書作成などの経験を活かし学生の技術力を高める授業を展開する

時間外に必要な学修

【授業準備】

テキストを読み予習しておく

回	テーマ	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的、評価方法 Windowsの基本操作 1. Excelの基本 2. データの編集 7. 関数 	<p>※授業の目的と評価方法の説明</p> <p>Windowsの概要、基本操作(アプリ操作、エクスプローラ)について理解する</p> <p>Microsoft Officeの概要、各ソフトの特徴、Excelの起動・終了、Excelの画面構成</p> <p>データの入力、データの移動とコピー、数式の入力、ブックの保存</p> <p>統計関数(SUM関数・AVERAGE関数・MAX関数・MIN関数)</p>

2	2. データの編集 3. 表の編集	絶対参照と相対参照、オートフィル 罫線、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 ページの書式設定、文字の書式設定、字下げ、禁則処理、均等割付 ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認方法
3	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1、2の問題1と問題2部分の答練 7. 関数	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する 統計関数(COUNT関数・COUNTA関数) 数学/三角関数(ROUND関数・ROUNDUP関数・ROUNDDOWN関数)
4	7. 関数 6. ブックの利用と管理	統計関数(RANK.EQ関数・RANK.AVG関数) 論理関数(IF関数・OR関数・AND関数) 日付関数(TODAY関数) ワークシートの管理、ウィンドウの操作
5	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1、2の問題4部分の答練 8. データベース機能	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する リストの作成、並べ替え、データの抽出、テーブル機能
6	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1、2の問題3、5部分の答練	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する
7	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題3の答練	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する
8	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題1の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる
9	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題2の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる
10	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題3の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる
11	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題4の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める

12	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題5の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
13	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題6の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
14	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題7の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
15	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級サーティファイHPからダウンロードしたサンプル問題の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Excel2016クイックマスター基本編(ウィネット) Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅲ		動物看護総合学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三村 梨恵
授業の概要				
ビジネス実務マナー検定 3級合格を目標				
検定取得と併せて、就職して新人研修を行わなくても、すぐ現場で接客できるようマナーについても勉強する。				
授業終了時の到達目標				
ビジネス実務マナー検定 3級合格 社会人として必要なマナーを身につける 就職先で同僚や上司にかわいがってもらえる人になるのが、目標!				
実務経験有無		実務経験内容		
有		一般企業で接客業(ショールームアドバイザー)として1年 トリマーとして14年の実務経験 接客業の経験をもとに、動物業界での接客に当てはめて、学生が実践しやすいような授業をする。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する				
回	テーマ	内 容		
1	Ⅱ 専門知識	Ⅱ 専門知識 2、従業知識 ①商業活動、経済活動が理解できる ②商業用語、経済用語が理解できる Ⅲ 一般知識 1、社会常識 ①社会常識がある ②時事問題を理解している		
2	Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識	過去問 Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識		
3	Ⅳ 対人技能	1、人間関係 ①人間関係の対処について、理解がある 2、接客知識 ①顧客心理を理解し、能力を発揮することができる ②一般的なマナーを発揮できる ③接客者としてのマナーを、発揮することができる		
4	Ⅳ 対人技能	3、話し方 ①接客用語を知っている ②接客者としての話し方ができる ③提示、説明ができる 4、服装 ①接客者としての適切な服装ができる		
5	Ⅳ 対人技能	過去問 Ⅳ 対人技能		

回	テ ー マ	内 容		
6	V実務技能	1、問題処理 ①問題処理について、対処できる 2、環境整備 ①環境整備について、対処できる 3、金品管理 ①金品の管理について、能力を発揮できる 4、金品搬送 ①送金、運搬について、理解できる 5、社交業務 ①社交儀礼の業務について理解し、処理できる能力がある 過去問		
7	過去問	V実務技能		
8	過去問	V実務技能		
9	POP作り	お店や病院でPOP作りを作る際のポイント		
10	検定解説	検定解説		
11	ビジネスマナー	社会人として必要なマナー		
12	ビジネスマナー	社会人として必要なマナー		
13	ビジネスマナー	社会人として必要なマナー		
14	ビジネスマナー	社会人として必要なマナー		
15	ビジネスマナー	社会人として必要なマナー		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ビジネス実務マナー検定 3級 受験ガイド		期末試験 出席率	90.0% 10.0%	検定結果を期末試験の代わりとします。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ペット美容学 I		動物看護総合学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	吉本 真紀
授業の概要				
座学 実技				
授業終了時の到達目標				
一般社団法人 全国動物専門学校協会 サロントリマー3級取得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		トリマーとして26年 これまでの経験を生かし授業を展開したと同時にライセンス試験のための対策も行う。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~ 2	プードルケネル&ラム	クリッパー実演		
3~ 5	プードルケネル&ラム講義	全体の切り方の注意事項の説明		
6~ 7	プードルマイアミ	絵を書く カットの説明		
8~ 9	プードルボレロマンハッタン	絵を書く カットの説明		
10~ 11	サロントリマー 3級試験対策	過去問題を解きながら対策		
12~ 13	今までのおさらい	仕事で使う事例でのおさらい		
14	スタンダードに基いて考えるトリミング	骨格などの説明		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
JKCドッググルーミングマニュアル		期末試験	90.0%	
		出席率	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トリミング実習BASIC I		動物看護総合学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	4単位(90時間)	必須	吉本, 山地, 森, 北村, 三村
授業の概要				
1年次のグルーミング実習の復習とスピードアップ 部分的・簡易的な全身カットに必要な、トリミング技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
ペット技能検定協会 トリマー2級合格 2時間以内にグルーミング作業を終わられるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	吉本真紀 トリマーとして28年 森 純子 トリマーとして15年 三村梨恵 トリマーとして14年 山地香里 トリマーとして4年 北村峻也 トレーナー・トリマーとして1年 豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく				
回	テーマ	内容		
1~ 45	基礎	1年次の復習とスピードアップ 部分的なカットを学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロが教えるベストトリミング ドッググルーミングマニュアル		出席率 実習・実技評価	10.0% 90.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トリミング実習BASIC II		動物看護総合学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	吉本, 山地, 森, 北村, 三村
授業の概要				
グルーミング作業の効率・スピードUPを目指す 全身カットに必要な、トリミングの基礎を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
トリミング2級試験合格 全身カットができるようになる 犬に負担をかけないような、丁寧な扱いができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	吉本真紀 トリマーとして28年 森 純子 トリマーとして15年 三村梨恵 トリマーとして14年 山地香里 トリマーとして4年 北村峻也 トレーナー・トリマーとして1年 豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく				
回	テーマ	内容		
1~30	基礎 部分的な、簡易カットの取得	お尻・顔等の部分的なカットとバリカンを使用した簡易的なカットの習得		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新ドッググルーミングマニュアル		出席率 実習・実技評価	10.0% 90.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トレーニング実習Ⅲ		動物看護総合学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村尾 智
授業の概要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 トレーナーとして25年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
【準備学習】テキストを読んで予習をしておく				
回	テーマ	内容		
1～5	クリッカー集中	クリッカーを使ったトレーニング		
6～10	脚側行進中の伏臥	正しい位置での伏臥		
11～15	脚側行進中の停座	正しい位置での座れ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トレーニング実習Ⅳ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村尾 智
授業の概要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 トレーナーとして25年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
【準備学習】テキストを読んで予習をしておく				
回	テーマ	内容		
1～5	クリッカー集中	クリッカーを使ったトレーニング		
6～10	脚側行進中の伏臥	正しい位置での伏臥		
11～15	脚側行進中の停座	正しい位置での座れ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 出席率	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物看護学各論 I		動物看護総合学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合
授業の概要				
動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには獣医師の職域とは異なる動物看護師の視点で動物を見られるようになることが必要である。「臨床動物看護学各論」では、動物看護学で学んだ概要を再度復習し、動物看護師の役割、目的などを振り返る。動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、補助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せず、習性や生態もちがう動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭でのお世話を継続して貰うために非常に大切である。チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として8年動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~2	動物看護学概論	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す		
3~4	動物看護学概論2	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について知ることができる		
5~6	動物看護学概論3	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について知ることができる		
7~8	動物看護者の倫理綱領	「動物看護者の倫理綱領2009」について学ぶ		
9~10	動物看護技術の基盤	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について		
11~12	動物看護技術の基盤2	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について		
13~14	動物看護技術の基盤3	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について		
15	総まとめ	総まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護の教科書(緑書房)		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物看護学各論Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合
授業の概要				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ、動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
動物の主な疾患の看護について実践でき、また飼主に疾病の予防を説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として8年動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	消化器の病気5	腸の疾患 タンパク漏出性腸症、炎症性腸疾患、食事反応性下痢、抗菌薬反応性下痢、腸リンパ管拡張症		
2	消化器の病気5	消化管内異物・腸閉塞・腸重積		
3	消化器の病気5	胃の疾患 胃拡張胃捻転症候群・幽門狭窄・胃炎		
4	消化器の病気5	食道の疾患 (右大動脈弓遺残含む)		
5	消化器の病気5	口腔の疾患1 歯の形態機能(復習) 不正咬合、乳歯遺残、口蓋裂・歯周病		
6	消化器の病気5	ヘルニア(臍・鼠径・会陰・横隔膜)		
7	消化器の病気5	肝臓疾患 肝炎、肝硬変、肝リピドーシス		
8	消化器の病気5	門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫		
9	消化器の病気5	膵炎、膵外分泌不全		
10	循環器疾患	循環器系: 心臓の構造と働き(復習)		
11	心臓の疾患	僧帽弁閉鎖不全 犬糸状虫症		
12	心臓の疾患	動脈管開存		
13	前期の復習	おさらい		
14	復習テスト	復習テストの実施		
15	期末テスト	期末試験の実施		

回	テ ー マ 教科書・教材	内 容		
		評価基準	評価率	その他
	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパニオンアニマルの健康管理学 ・くわしい犬の病気大図典 	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	復習を確認テスト で行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物病理学		動物看護総合学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田上 真紀

授業の概要

動物看護において、動物がどのような状況にあり、どのような看護が必要かは、発生のメカニズムと病理学的特徴を理解することから始まる。ついては、生理機能の障害からどのように病気が発生し、どのように変化し、どのように回復していくのかを理解する。さらに、病気の特徴や分類、名称、物理学的検査方法などの病理学専門用語を用いて学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解し、動物看護に活かす。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、腫瘍などの項目について学ぶ。

授業終了時の到達目標

授業概要に含む

実務経験有無	実務経験内容
有	獣医師として10年、動物病院に勤務

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	動物病理学の概要 病気の変遷、成り立ちと変遷	動物病理学を学ぶ意義を理解し、病気の変遷と動物看護学の関連を知る
2	細胞の死	動物病理学における細胞の死を学ぶ
3	循環障害①	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ
4	循環障害②	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ
5	退行性病変①	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ
6	退行性病変②	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ
7	進行性病変①	動物病理学における進行性病変について学ぶ
8	進行性病変②	動物病理学における進行性病変について学ぶ
9	炎症①	動物病理学における炎症について学ぶ
10	炎症②	動物病理学における炎症について学ぶ
11	炎症③	動物病理学における炎症について学ぶ
12	先天異常	動物病理学における先天異常について学ぶ
13	免疫異常	動物病理学における免疫異常について学ぶ
14	老齢性病変	動物病理学における老齢性病変について学ぶ

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験の実施		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	動物看護コアテキスト3(動物の疾病と予防および回復) ファームプレス 系統看護学講座(病理学) 医学書院 系統看護学講座(病態生理学) 医学書院	期末試験 出席率	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物感染症学 I		動物看護総合学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	荒岡 杉

授業の概要

伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。

授業終了時の到達目標

感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルスなど)について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。

実務経験有無 実務経験内容

有 動物病院における小動物臨床に従事(35年)
動物系専門学校における動物看護系授業担当(13年)

時間外に必要な学修

【準備学習】

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

マンガ「はたらくさいぼう」を読む

回	テーマ	内容
1	動機付け 感染症の成立	感染症学とは何か。 感染症学を学ぶ意味を考える。
2	免疫	免疫の仕組みについて学び、感染症の予防法の理解につなげる
3	アレルギー	アレルギーの仕組みについて学び、その予防や発生時の対処の理解につなげる
4	感染経路	様々な感染経路を理解し、感染症予防法の理解につなげる
5	感染源①	感染源となる微生物について学ぶ
6	感染源②	感染源となる微生物について学ぶ
7	感染源③	感染源となる微生物について学ぶ
8	感染源④	感染源となる微生物について学ぶ
9	感染源⑤	感染源となる微生物について学ぶ
10	感染源⑥	感染源となる微生物について学ぶ
11	感染源⑦	感染源となる微生物について学ぶ
12	媒介動物①	感染症を媒介する動物について学ぶ
13	媒介動物②	感染症を媒介する動物について学ぶ
14	媒介動物③	感染症を媒介する動物について学ぶ

回	テ ー マ	内 容		
15	中間まとめ①	ここまで学んだ内容について復習する		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	動物看護コアテキスト3巻（ファームプレ ス）	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
産業・実験・野生動物学 I		動物看護総合学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	荒岡 杉
授業の概要				
<p>伴侶動物とは異なる生理・生態・行動・習性・疾病・関係法令・飼育管理方法などを学ぶことにより、小動物臨床現場において応用可能な知識・技術を習得し、臨機応変な対応・考え方のできる動物看護師となり、社会人として必要な教養や一般常識を身に付けることが重要である。それぞれの動物に対し、伴侶動物とは異なる愛護精神が必要となるため、多様性のある物事のとらえ方、動物との接し方を学び、滑動物看護師としてどのように関わっていくかを考え思慮を深める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、多方向から看護対象をとらえることが出来る看護感を養うとともに、正しい知識を身に付けてそれを社会に普及・啓発し動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する人材となることを目指す。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>動物病院における小動物臨床に従事(35年) 動物系専門学校における動物看護系授業担当(13年)</p>		
時間外に必要な学修				
特になし				
回	テーマ	内 容		
1	産業動物学授業の導入	<p>産業動物とはどのような動物か。 産業動物の社会的役割と目的。 産業動物と伴侶動物の違いは何か。</p>		
2	ウシ①	ウシの歴史、特性・品種		
3	ウシ②	ウシの解剖生理・繁殖生理		
4	ウシ③	ウシの飼育管理		
5	ブタ①	ブタの歴史、特性・品種		
6	ブタ②	ブタの飼養管理		
7	ニワトリ①	ニワトリの歴史、特性、品種		
8	ニワトリ②	ニワトリの飼養管理		
9	ウマ①	ウマの歴史、特性、品種		
10	ウマ②	ウマノ飼養管理		
11	ヒツジ・ヤギ	<p>ヒツジ・ヤギの歴史、特性、品種 ヒツジ・ヤギの飼養管理</p>		
12	畜産業について	<p>我が国の畜産業の概要 地域による特性</p>		
13	産業動物の動物福祉①	<p>産業動物の福祉改善の歴史と定義 産業動物の飼養概況と動物福祉の課題</p>		

回	テ ー マ	内 容		
14	産業動物の動物福祉②	産業動物に関する国際的福祉基準 動物		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト4（ファームプレス） 動物看護の教科書4（緑書房） 応用動物看護学3（インターズー）		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
産業・実験・野生動物学Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	荒岡 杉
授業の概要				
<p>実験動物は医学、薬学、生命科学などにおける教育、研究、試験のために用いられる動物や、生物学的製剤の製造やその他の科学的な利用に供される動物である。</p> <p>それらは、目的に合わせてさまざまな種類の動物が用いられている。基本的には非終生飼育動物であり、それらは伴侶動物とは異なる飼育環境に置かれている。本学科ではそれぞれの動物の基礎的な管理に加えて、実験動物を管理する上で身に付けておくべき内容について学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>実験動物の社会的役割と、実験動物として用いられる動物の種類を理解する。</p> <p>動物実験における「3Rの原則」を理解し、実験動物に対する福祉的な配慮について身に付ける。</p> <p>実験動物の飼育環境や実験動物の扱い及び管理について理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院において獣医師としての診療業務	37年	
		動物系専門学校における教務	14年	
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	実験動物概論①	実験動物の目的と配慮 実験動物とは		
2	実験動物概論②	実験動物の歴史 実験動物関連法規の誕生と発展		
3	実験動物の管理学①	生体因子の管理学 遺伝的モニタリングの管理学		
4	実験動物の管理学②	住居環境因子、物理化学的因子の管理学 栄養学的管理学 微生物学的管理学		
5	実験動物の管理学③	動物実験の基本技術 動物飼育管理上の注意点		
6	実験動物の特性と飼育管理①	マウス・ラット		
7	実験動物の特性と飼育管理②	シリアンハムスター・チャイニーズハムスター		
8	実験動物の特性と飼育管理③	スナネズミ・モルモット		
9	実験動物の特性と飼育管理④	ウサギ・サル類		
10	疾患モデル動物	自然発症疾患モデル動物・トランスジェニック動物 実験的疾患モデル動物、研究資源バンク		
11	動物実験の代替法	代替法とその活動 代替法開発の背景と現在の課題		
12	実験動物の福祉①	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制 3Rの原則		
13	実験動物の福祉②	環境エンリッチメント 獣医学的ケア		

回	テ ー マ	内 容		
14	実験動物の福祉③	実験動物の苦痛の評価 安楽死を伴わない動物実験 労働安全衛生		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
応用動物看護学3（インターズー） 動物看護コアテキスト4（ファームプレス）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床栄養学 I		動物看護総合学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合
授業の概要				
動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的であるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として8年動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	動物栄養学総論	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する		
2	基礎栄養学	動物栄養学の中の基本を知る		
3	基礎栄養素 水	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ		
4	基礎栄養素 タンパク質	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ		
5	基礎栄養素 炭水化物	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ		
6	基礎栄養素 脂肪	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ		
7	基礎栄養素 ミネラル	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ		
8	基礎栄養素 ビタミン	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ		
9	イヌとネコの栄養要求の違い	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について学ぶ		
10	ライフステージ別の栄養管理①	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
11	ライフステージ別の栄養管理②	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
12	ライフステージ別の栄養管理③	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
13	ライフステージ別の栄養管理④	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		

回	テ ー マ	内 容		
14	ライフステージ別の栄養管理⑤	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床栄養学Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合

授業の概要

動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的であるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。

授業終了時の到達目標

栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。

実務経験有無	実務経験内容
有	動物看護師として8年動物病院に勤務

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	動物栄養学総論	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する
2	基礎栄養学	動物栄養学の中の基本を知る
3	基礎栄養素 水	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ
4	基礎栄養素 タンパク質	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ
5	基礎栄養素 炭水化物	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ
6	基礎栄養素 脂肪	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ
7	基礎栄養素 ミネラル	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ
8	基礎栄養素 ビタミン	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ
9	イヌとネコの栄養要求の違い	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について学ぶ
10	ライフステージ別の栄養管理①	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
11	ライフステージ別の栄養管理②	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
12	ライフステージ別の栄養管理③	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える

回	テ ー マ	内 容		
13	ライフステージ別の栄養管理④	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
14	ライフステージ別の栄養管理⑤	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物看護実習Ⅲ		動物看護総合学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長尾 美花
授業の概要				
講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に付ける。 また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。 動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
修得した知識の実践力を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として20年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	1年時の復習		
2~3	保定	犬猫の取扱いを知り、基本的な保定法を身につける		
4~6	注射(皮下・皮内・筋肉)	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の部位を学び、注射時の保定の手技を身につける		
7~8	輸液管理	輸液の目的を理解し、適切な準備接続および操作方法が実践できる		
9~10	採血	採血時の保定に必要な解剖生理学を学ぶ		
11~12	検体処理	検体の適切な取り扱いを身につける		
13~14	レントゲン	レントゲン撮影の仕組み・装置の操作法を学び、適切なポジショニングがとれるようになる		
15	期末テスト	期末テストを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト		期末試験 実習・実技評価 出席率	60.0% 30.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物看護実習Ⅳ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長尾 美花
授業の概要				
<p>「動物看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」での実践能力に応用力を用いて診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。</p> <p>全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。また、手術関連業務として外科手術に必要な「術前準備と術後業務」「麻酔器・モニター機器」までの意義を理解し、機器の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし適切な取り扱いができるようになる。動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。</p>				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として20年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	バイタルチェック	イヌとネコの全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告の仕方を学ぶ		
2	衛生管理・入院管理	感染の定義と感染症を理解し、滅菌・消毒・殺菌への理解を深める。また、感染の予防の実践の仕方を学ぶ		
3	手術関連業務①	リネン類・手術器具の種類と用途目的を理解し適切な管理と準備を学ぶ		
4	手術関連業務②	縫合糸の種類と特性、用途目的を理解する。また、適切な滅菌作業と管理運用を学ぶ		
5	術前術後の看護①	気管挿管、血管確保の目的を理解し、準備と補助の手技を学ぶ		
6	術前術後の看護②	術前・中・後の輸液の目的を理解し、準備と接続、輸液管理の手技を学ぶ		
7	術前術後の看護③	術野の毛刈りと消毒の手技を学ぶ		
8	術前術後の看護④	手洗いおよび術着、手袋の着用の手技を学ぶ		
9	術前術後の看護⑤	術前術後看護①～④までの復習 術野の毛刈り・消毒、手洗いおよび術着・手袋の着用の手技を実践する		
10	術前術後の看護⑥	術創の保護を学び、術後のバイタルチェックの報告と記録、状況に応じた動物管理を学ぶ		
11	麻酔モニタリング①	麻酔器の仕組みを理解し適切に接続できる手技を身に付ける		
12	麻酔モニタリング②	モニター機器の仕組みを理解し適切な装着接続を学ぶ モニター数値の正常値・異常値を把握し理解する		

回	テ ー マ	内 容		
13	麻酔モニタリング③	術中のバイタルチェックの監視報告と状況に応じた動物管理を学ぶ		
14	麻酔モニタリング④	麻酔機器を獣医師の指示の基づき操作してみる		
15	期末試験	期末試験を実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験 実習・実技評価 出席率	60.0% 20.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床検査学実習 I		動物看護総合学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(60時間)	必須	小松 志帆
授業の概要				
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する				
授業終了時の到達目標				
動物病院業務に必要な知識を修得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師として10年、動物病院で勤務する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	臨床検査の基礎①	1) 臨床検査における動物看護師の役割		
2	臨床検査の基礎②	1) 検体の種類や目的に応じた検査法 2) 適切な検体の取り扱い		
3	血液検査①	1) 血漿、血清の分離法 2) 全血球計(CBC) 3) 血液塗抹の作成法		
4	血液検査②	1) 骨髄検査の目的と意義		
5	血液検査③	1) 生化学検査の目的と意義		
6	尿検査	1) 採尿法の種類と検体材料の適切な取り扱い 2) 尿の性状検査 3) 尿沈渣		
7	糞便検査①	1) 糞便の一般性状、顕微鏡検査、検査法の種類		
8	糞便検査②	1) 採便法 2) 虫卵・原虫の検出法		
9	細胞診検査	1) 細胞診の目的と方法		
10	微生物学的検査	1) 微生物学的検査の目的		
11	心電図検査と血圧測定①	1) 心電図検査の目的と意義 2) 心電図検査の実施方法		
12	心電図検査と血圧測定②	1) 血圧測定の方法と意義、注意点		
13	X線検査①	1) X線装置の基本原理 2) X線検査の目的と意義 3) X線検査の実施方法、撮影条件の設定と準備、撮影体位		
14	X線検査②	1) 被ばくの問題点と被ばく管理法 2) フィルムの現像手順とフィルム管理、廃液処理 3) デジタルX線撮影		
15	CT、MRI検査	1) CTおよびMRIの基本的知識		

回	テ ー マ	内 容		
16	超音波検査	1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位 2) プローブの種類と取り扱いの注意		
17	内視鏡検査	1) 内視鏡検査の目的と意義		
18	神経学的検査①	1) 神経学的検査の目的と意義		
19	神経学的検査②	1) 姿勢反応と脊髄反射		
20	神経学的検査③	1) 脳神経の検査法		
21	神経学的検査④	1) 評価記録法		
22	眼科検査①	1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義		
23	眼科検査②	1) 眼圧測定の方法と意義		
24	眼科検査③	1) 眼底検査の方法と意義		
25	皮膚と耳の検査①	1) 皮膚病変の観察 2) 皮膚病変の記録法		
26	皮膚と耳の検査②	1) 皮膚搔爬試験		
27	皮膚と耳の検査③	1) 毛検査 2) 皮膚生検		
28	皮膚と耳の検査④	1) ウッド灯検査 2) 真菌培養法		
29	まとめ	これまでの学習の振り返り		
30	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
コアテキスト第6巻（ファームプレス）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床検査学実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(60時間)	必須	小松 志帆

授業の概要

診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査および血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。

授業終了時の到達目標

授業概要に記載

実務経験有無	実務経験内容
有	獣医師として10年、動物病院に勤務

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1～2	臨床検査概論	臨床検査の意義を理解し、基本的手技を身につける。また、看護実践能力を身につける。
3～4	検体処理概論	検体の適切な取り扱いを身につける
5～6	検体処理① 血液採取法・保存法	血液採取法と各成分に応じた保存法について理解できる
7～8	検体処理② 尿の採取・保存法	尿の採取法と保存法を理解できる
9～10	検体処理③ 採便法・保存法	採便法と保存法を理解できる
11～12	顕微鏡	適切な顕微鏡の操作法および取り扱いを身に付ける
13～14	顕微鏡2	正しい操作と基本的なメンテナンス法が理解できる
15～16	血液検査	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける
17～18	血液検査2	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける
19～20	血液検査3	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける
21～22	血液検査4	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける
23～24	尿検査	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける

回	テ ー マ	内 容		
25～ 26	尿検査 2	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける		
27～ 28	糞便検査	糞便検査の意義を理解し、適切な手技を身に付ける		
29～ 30	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
外科動物看護学実習 I		動物看護総合学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	大平 一喜

授業の概要

周術期の術前・術中・術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。

看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また麻酔が円滑に行われるためには、日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する

授業終了時の到達目標

授業概要に含まれる

実務経験有無	実務経験内容
有	獣医師として44年動物病院に勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	手術補助	外科手術の流れ
2	器具・機材の準備①	手術器具
3	器具・機材の準備②	縫合材料(糸と針)
4	器具・機材の準備③	ドレープ類・ガウンの意義
5	器具・機材の準備④	電気メス
6	器具・機材の準備⑤	器具の滅菌・管理
7	避妊・去勢手術	外科手術を補助するための必要な基礎知識
8	麻酔前評価	術前の患者動物の評価
9	まとめ①	外科看護技術の修得
10	術前の準備	手術室の準備(日常から当日まで)
11	術者の準備①	手指の消毒法
12	術者の準備②	ガウン・グローブ装着方法
13	動物の準備①	術野の準備

回	テ ー マ	内 容		
14	動物の準備②	ドレープのかけ方		
15	血管確保	血管確保の準備・手順		
16	気道確保	気道確保の準備・手順		
17	輸液管理	輸液の準備・管理		
18	麻酔とは	麻酔の種類		
19	麻酔薬の作用	麻酔薬の作用・代謝・排泄		
20	麻酔前投与薬	麻酔前投与薬の意義		
21	鎮痛薬	鎮痛薬の意義		
22	麻酔導入	麻酔導入方法の理解		
23	吸入麻酔薬	吸入麻酔薬の意義		
24	酸素化	麻酔導入前の酸素化の意義		
25	麻酔器の構造と管理	麻酔器の仕組みの理解		
26	モニター機器の準備と管理①	E C Gモニターの仕組みを理解		
27	モニター機器の準備と管理②	血圧モニターの仕組みを理解		
28	まとめ②	外科看護技術の修得		
29	麻酔のモニター①	気道のモニター、換気のモニター		
30	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー） 周術期の動物看護パーフェクトナビ（インターズー） 動物看護師のための麻酔超入門（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
外科動物看護学実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	大平 一喜
授業の概要				
<p>周術期の術前、術中、術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。</p> <p>看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する</p>				
授業終了時の到達目標				
授業概要に含まれる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師として44年動物病院に勤務する。これまでの臨床経験や場面を教材として指導する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	麻酔前評価	術前の看護動物の評価		
2	麻酔維持	モニタリングの目的		
3	動物のモニター①	五感を使ったモニター方法①		
4	動物のモニター②	五感を使ったモニター方法②		
5	麻酔のモニター①	換気のモニター		
6	麻酔のモニター②	酸素化のモニター		
7	血液循環	血液循環とは		
8	血液循環のモニター①	心電図モニター		
9	血液循環のモニター②	心電図モニター		
10	血液循環モニター③	血圧のモニター		
11	血液循環モニター④	血圧のモニター		
12	その他のモニター①	体温のモニター		
13	その他のモニター②	尿量モニター		

回	テ ー マ	内 容		
14	麻酔記録	麻酔記録の意義		
15	麻酔覚醒①	麻酔覚醒とは		
16	麻酔覚醒②	抜管基準		
17	麻酔覚醒③	覚醒後の患者管理のポイント		
18	術後管理①	手術後の創傷管理①		
19	術後管理②	手術後の創傷管理②		
20	術後管理③	疼痛管理		
21	術後管理④	疼痛管理		
22	術後管理⑤	アメニティ		
23	術後管理⑥	アメニティ		
24	術後管理⑦	術後の栄養管理①		
25	術後管理⑧	術後の栄養管理②		
26	術後管理⑨	看護記録と報告		
27	まとめ①	麻酔記録・術後管理のまとめ		
28	まとめ：確認試験対策	外科看護技術の修得		
29	確認試験	外科看護技術の修得		
30	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト6「動物看護の実践」ファームプレス 専門分野「動物外科看護技術」インターズー		期末試験 出席率	90.0% 10.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	長尾 美花
授業の概要				
動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い知識を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・動物病院の概要(地域特性、診療方針、スタッフの構成等)を理解し、自身が動物病院でどのように加わるかを考える ・学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する ・飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習する中で、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として20年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~6	体験型実習	オリエンテーションを受け、実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その職務内容を理解する		
7~12	体験型実習	可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務・役割を果たす		
13~18	体験型実習	チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員がそれぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、良好なコミュニケーションを構築する		
19~24	体験型実習	動物愛護の精神・言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について理解する		
25~30	体験型実習	学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連について認識を深める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	90.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「動物看護総合実習」の成績評価については、インターンシップ評価表の結果をもとに点数化し評価する 【衛生・健康管理】(優)8点(良)7点(可)6点(不可)5点 【接遇マナー、勤務状態】(優)6点(良)5点(可)4点(不可)3点 ・合計で100点満点とする
		出席率	10.0%	